



# 嬉 望

第 14 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

タイトルの嬉望は、兵教大メインキャンパスが嬉野台地区にあることと希望をかけた造語です。

今回は、1年生の自主学習活動を集めました。たくさんの活動をしているため、まだ載せきれなかったものもあり、それについては次号以降に紹介します。

## ●1年生の自主学習活動【その2：神戸市のOJT事例発表会に参加】



8月30日（火）に、神戸市総合教育センターで「校内OJTの実践発表会」があり、1年生10名が参加しました。これは、神戸市教育委員会の今年度からの新規事業で、若手教員が急増する中、校内での効果的・効率的な育成方を検討しようとするものです。

学校経営コースの浅野教授が、本事業の指導・助言者となり、OJT手法を活用したモデル校での実践について発表と意見交換、そして、2学期に向けて取り組みを充実するためのワークショップが行われました。



1年生もワークショップに参加し、授業でも扱った現任校での育成方策の改善や見直しをしました。（写真左）

当日は、傍聴の私たち学生のために、神戸市総合教育センターの大内室長には、席はもちろんのこと人数分の資料をご準備いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

## ●1年生の自主学習活動【その3：韓国・大邱教育大学での研修】

9月5日から19日までの15日間、1年生の高橋先生（秋田県）、藤村先生（山口県）の2名が日韓教育実習プログラムに参加しました。

この研修は、韓国の教育・文化・歴史に触れることにより、日本と韓国の文化の相違に対する理解を深めて、国際時代に相応しい文化的要素を培い、国際的な見聞を広めるものでした。特に韓国の教育で目を引いたのは、ICT教育や英語教育が日本よりはるかに進んでいたことでした。また、日頃あまり



関わることのないストレート院生や通訳の韓国の学生たちと国を超えて交流できたこともとてもいい経験になりました。

写真左は中学校で説明を受けている様子です。写真右は大学での環境教育についての特別講義での実験です。（中央 高橋先生）

## ●1年生の自主学習活動【その4：京都市教育委員会及び学校訪問】

8月24日（水）、1年生の高橋先生（秋田県）が、若手教員が多く人材育成に力を入れている京都市教育委員会を訪問し、その具体的な取組について指導主事から話を伺いました。

京都市では、採用前から、大学生に学校ボランティアとして活動の機会を与えたり、教育委員会が主催した「教師塾」を開催したりと、若手教員の育成に積極的に取り組んでいます。また、1年目から5年目までの校内育成のシステムができており、若手教員が初任教員を育成することで、双方の力量形成にとって有意義であると感じました。

その後、9月23日（金）に初任教員が3名おられる「音羽川小学校」の運動会の見学をしました。15名の大学生の学校ボランティアが参加し、初任教員の担任クラスを盛り上げていました。



## ●1年生の自主学習活動【その5：タイ王国教育研修に参加】

9月13日から20日に、タイ王国での教育研修がありました。学校経営コースからは堀内教授と日渡教授、心の教育実践コースの淀澤準教授に同行して、P1の久本先生（鳥取県）と吉岡先生（山口県）が参加しました。この研修は、本学を含む関西の教員養成5大学・学部が連合して交流協定を締結しているタイ王国の地域総合大学（RU-Rajabhat University：旧教育大学-タイ全土に40大学）の協力を得て、タイの教育、教員養成教育の実際を広く理解することをねらいとしています。



研修内容は、バンコクやアユタヤの大学訪問・交流、附属小学校での児童との交流授業、大学院での講義参加、高校や日本大使館訪問などでした。

タイでは、外国語教育に力を入れており、訪れた高校では、海外に留学生を送り出したり、7人もの外国語教師がいたりしました。日本でも小学校に外国語教育が導入されたこともあり、学ぶべきところがたくさんありました。

実際にタイの教育を見ることで、日本の教育を見直すことができ、教員として求められる国際的な視野を広げることができました。

写真右上は、小学校の授業の様子、左上は堀内教授、日渡教授、淀澤準教授はじめ参加者です。

## ●1年生の自主学習活動【その6：舞子高校の視察と校内研修参加】

10月14日、高校籍の1年生を中心に7名の院生が、浅野教授に同行して兵庫県立舞子高等学校の校内研修会に参加しました。舞子高校は、全国でただ一つ「環境防災科」のある高校で、浅井校長から、東日本大震災に関わる学校の取り組みや、校長の仕事、今後の経営方針等のお話を伺いました。また、校内研修の「生徒の学習時間の確保」をテーマにしたワークショップにも参加しました。

舞子高校は、今年の3月に学校経営コースを修了した谷川先生が教頭として勤務しておられる学校で、修了生の活躍を目の当たりにできたことも、よい刺激になりました。写真は、私たち1年生に、学校概要を説明する谷川教頭です。



## ●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑬ ～教員の社会的役割と自己啓発～（必修共通科目）

今回の授業紹介は、1年前期に開講されている「教員の社会的役割と自己啓発」です。この科目では、「現代社会における学校教育の役割」や、「学校教育の現代的課題の解決へ向けて」、「教員の社会的役割・職業倫理に関する事例研究」「教員のコミュニケーション能力の開発」等々の内容で15回の授業が行われました。この授業の中では、教育界の先達のこともたくさん紹介されました。また、学級崩壊や指導力不足教員の問題、学校不信や保護者の苦情対応などのテーマでグループ討議、NHKスペシャル「よみがえる教室」（大瀬敏昭校長のドキュメント）を視聴してのディスカッションなども行いました。筆者にとっては、倫理的、哲学的側面から現代教育のことを考え、実践へとつなげる時間でした。さらに教育者として、そしてそのリーダーとして、とても大切なものを学び、考えた時間でした。

他のどんな職業も人間性で評価されないのに、なぜ教師は人間性で評価されるのか？授業や学級経営のテクニックで勝負してこそ専門職ではないのか？

←→ 人間を育てるから、人間性が大切なのである。

「村を捨てる学力」から「村を育てる学力」へ（東井義雄）

いい先生の三条件「子ども好き。それから子どもと遊べること。その次に、子どもを信用する。信頼するといってもいい。けれども、もっと根本的、もう一つ高い次元で言うならば、お互い人間同士ということ。先生も人間、一年生の君も人間、その人間同士ということが、実は信頼感の基になるんじゃないか。」（今井鑑三）

授業において、印象に残った大学の先生の言葉や先達の言葉（抜粋）

### 保護者等と接する心得 10か条

- ① 相手をねぎらう。
- ② 心理的事実には心から謝罪する。
- ③ 話し合いの条件を確認する。
- ④ 相手の立場に立って良く聴く。
- ⑤ 話が行き詰まったら、状況を変える。
- ⑥ 言い逃れをしない。
- ⑦ 怒りのエネルギーの源はどこから来るのか考える。
- ⑧ 対応を常に見直し、同じ失敗を繰り返さない。
- ⑨ できることとできないことを明確にする。
- ⑩ 向き合う気持ち、共に育てる視点をもつ。

「学校問題解決のための手引き」（東京都教育委員会）より